

はじめに

ときは、コロナ禍。

「おうち時間」、「ステイホーム」、「巣ごもり」などの言葉が多く聞かれる今、まさに「家庭科」という学習の重要性を感じます。食生活を見直したり、暮らしを豊かにするために自分が必要なもの、作りたいものを作る楽しみを味わったり、限りある物や金銭を生かした消費を考えたりすることは、子どもたちの自立にむけて大切な学習です。

昨年度は、集まったの研修もなかなかできない状況の中、それぞれがテーマに沿って実践を行い、それを1冊にまとめ、配付することで実践の交流とし、研修を終えました。

With コロナの今年度は、状況次第で集まるのが難しくなるのではないかと予想の下、何とか少人数で集まる形で授業実践を行ってきました。第1回研修会において、研究テーマの確認、チーム分けと内容を決定しました。阿蘇家庭科部会（AKB）を3つのチームに分け、チームAは「消費生活・環境」、チームKは「衣食住の生活」から「食生活」、チームBは「衣食住の生活」から「衣生活」の内容で研究テーマに迫ることにしました。

どの実践も生活の中から問題を見だし、課題を設定し、解決方法を検討し、計画、実践、評価・改善するという一連の学習過程で、その1コマを公開し、協議を行いました。少人数ではありましたが、活発な意見交換をすることができました。

2年間、コロナ禍の中でできることを工夫して取り組んできました。子どもたちには「家庭科」の楽しさ、学ぶよさ、より良くしようと工夫するおもしろさを少しでも感じる事が出来たのではないかと思います。

不十分な点も多々あるかとは思いますが、一読頂ければ幸いです。

令和4（2022）年 1月